

第 14 回岡山医療フォーラム「血管と疾患」

ご挨拶

公益財団法人岡山医学振興会 代表理事
難波 正義

当財団は、2001年に岡山大学医学部内に設立され、その後、法律の改正により、2011年に公益財団法人となっています。当財団の活動の一環として、毎年このような市民講座を開催しています。皆様のお役に立っているでしょうか。忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

その他の財団の活動として、岡山県下の医療に関する教育、研究、学会、研究会、医療関係の人の海外派遣、海外からの招請、地域連携活動、などを助成しています。そして、これらの活動は、岡山大学医学部関係者から毎年いただく寄付で行っています。

今後とも、市民の皆様にもご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

「脳血管障害（脳卒中）とその最新治療」

岡山大学脳神経外科・IVRセンター
杉生憲志

脳卒中は、血管が破綻して（破れて）出血する出血性脳卒中と、血管が閉塞して（詰まって）細胞が障害され脳梗塞となる虚血性脳卒中に大別されます。前者の代表として、高血圧が原因で脳の細い血管が破綻して起こる「高血圧性脳内出血」と、脳の太い血管に発生した「脳動脈瘤」が破れて起こる「クモ膜下出血」があります。後者には、動脈硬化症により脳の血管に狭窄（細くなること）を来し閉塞に至る「脳血栓」と、不整脈により心臓内で形成された血の固まりが脳へ飛んで閉塞を引き起こす「脳塞栓」があります。脳神経外科ではこれら脳卒中に対して、従来の開頭術に加えて、患者さんに負担の少ない血管内治療（カテーテル手術）を行ない、治療成績は向上しています。特に虚血性脳卒中の超急性期治療は新しい薬や器具の開発により、急速に発展しています。一方で、いったん障害された脳神経細胞の回復は難しいため、予防が重要なことは言うまでもありません。

高血圧と心臓病

-血圧管理は、元気で長生きのもと-

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学
中村一文

高血圧は心血管病（脳卒中および心臓病）の重大な危険因子です。心臓病では、冠動脈疾患（狭心症・心筋梗塞）・心不全・心肥大・心房細動の発症を増やします。従いまして「元気で長生き」のためには、高血圧の予防と治療に気をつけていく必要があります。

予防で重要なのは減塩です。食塩摂取量が多くなると血圧が高くなります。日本人は食塩摂取が多く、毎日の食生活にも気を配ることが「元気で長生き」の秘訣です。

高血圧にその他の危険因子がかさなるとさらに危険性は増加します。肥満・メタボリックシンドロームにならないよう生活習慣を考えて行く必要があります。

今、見直そう～腎臓と健康長寿の関係～

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 慢性腎臓病対策腎不全治療学
杉山 斉

日本人の平均寿命は2013年に初めて80歳を超えたが、健康寿命（日常的な介護に頼ることなく、心身ともに健康で暮らすことができる期間）はそれより約10年短い（男性9年、女性12年）。

慢性腎臓病はその患者数が全国で1330万人と推定される新たな国民病であり、高齢化や生活習慣病の増加と密接に関連している。腎臓は糸球体をはじめとして血管に富んだ臓器であり、一日あたり1500リットルの血液が流れ、1.5リットルの尿を排出する。腎臓が障害されると腎不全や尿毒症だけでなく、脳・心血管障害を引き起こすため注意が必要である。逆に、腎臓を保護することは血管の保護につながり、脳・心血管障害を予防することになる。すなわち、腎臓を守る生活習慣や、腎臓病の早期発見・早期治療は、腎不全や脳・心血管障害の発症を防止して健康寿命の延伸をもたらす可能性がある。さらに腎臓には抗老化因子クロトーが発現しており、腎臓と健康長寿の関係を見直すことで健康寿命の延伸が可能になる。本講演ではこれらをわかりやすくお話しする予定である。